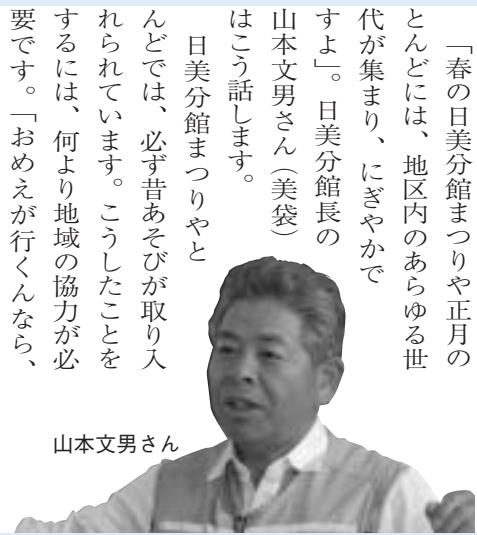


2 地域と子どものふれあい

市内には、子どもたちの健全育成や見守り活動に取り組んでいる地域がいくつもあります。そのなかの3つの活動と近況を関係者の声をまじえて紹介します。



「春の日美分館まつりや正月の
とんどには、地区内のあらゆる世
代が集まり、にぎやかで
すよ」。日美分館長の
山本文男さん（美袋）
はこう話します。
日美分館まつりやと
んどでは、必ず昔あそびを取り入
れられています。こうしたことを
するには、何より地域の協力が必
要です。「おめえが行くんなら、
おれも行こうか」。この地域にあ
るこの雰囲気、上手いことして
る秘訣と山本さんは言います。そ
して、「3世代、出合い、ふれあ
い、みんな友達」、「子どもあつて
の地域」を強調。子どもたちの見
守りやあいさつ運動にも地域は積
極的に関わっています。



山本文男さん

分館活動（日美）



子ども110番のプレートを設置する会員



そうじゃ水辺の楽校で遊ぶ



川での自然体験も数多く実施してきた



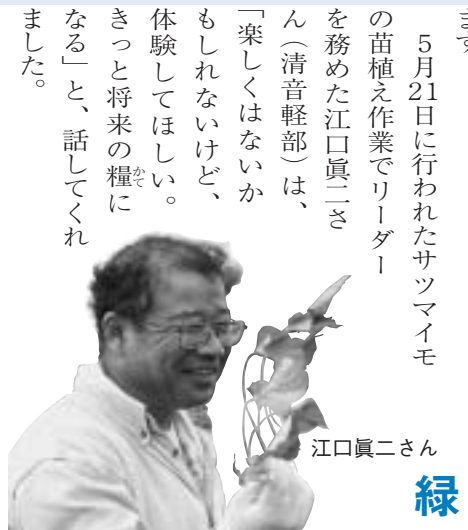
雪舟フェスタの総おどりに小僧姿で参加



のびのび教室で地域の人とゲームを楽しむ



敬老会で歌やリコーダーを披露



江口眞二さん

緑と健康クラブ（清音）



平成7年に発足した緑と健康ク
ラブ。清音地区の小学3年生から
6年生までの希望者が会員です。
主な活動としては、カヌー体験や
夏のキャンプ、農作業体験といっ
たもの。活動ごとにその分野にた
けた人がリーダーを務め、子ども
たちの体験活動を引っ張ってい
ます。

5月21日に行われたサツマイモ
の苗植え作業でリーダー
を務めた江口眞二さ
ん（清音軽部）は、
「楽しくはないか
もしれないけど、
体験してほしい。
きつと将来の糧に
なる」と、話してくれ
ました。

地域の人と関わりながら大きくなった
一人、片岡美奈さん（八代）。片岡さん
の一番の思い出は、総社大橋からきよね
水辺の楽校までの高梁川をカヌーで下っ

「元気にすくすくと育ってほしい。そ
れを見守っていききたい」。発足当初から
約5年間役員をしていた浅沼善子さん
（下原）は、会の名前に込められている
思いを伝えてくれました。浅沼さんの印
象に残っているのは、地域の人と子
どもたちがいっしょに遊ぶ「のびのび教
室」。「今でも、声を掛けてもらえるんで
すよ」と、目を細めます。

神在っ子すこやか育成会の 活動を振り返って

神在っ子すこやか育成
会の活動を記録した写真

たこと。「瀬を下るのは慣れるまでは怖
かったが、スリルがあつてとてもおもしろ
かったですね。普段できない経験や冒
険ができたのも育成会の人たちのおかげ
です」と、言います。そのカヌーを指導
した友杉富治さん（中央二丁目）は、「自
然体験は子どもの健全な成長には必要な
こと」と訴えます。神在小学校の教頭で
もあつた友杉さん。「子どもたちには兄
弟愛のような人間関係を感じます」と教
えてくれました。

子どもたちには 兄弟愛のような人間関係を感じます

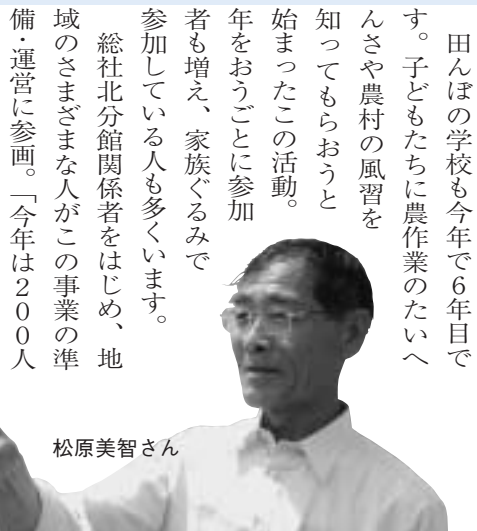
地域で 子どもを 育てる

皆さんが口をそろえて言います。「地
域と子どもが交流することで、子どもが
地域の一員になれる」と。



田んぼの学校（泉）

田んぼの学校も今年で6年目
です。子どもたちに農作業のたいへ
んさや農村の風習を
知ってもらおうと
始まったこの活動。
年をおうごとに参加
者も増え、家族ぐるみで
参加している人も多くいます。
総社北分館関係者をはじめ、地
域のさまざまな人がこの事業の準
備・運営に参画。「今年は200人
を超えるボランティアの申し込み
がありました」と、代表の松原美
智さん（泉）は言います。田植え
からとんどまで年間9回の事業が
展開されますが、それぞれの事業
が地域の社会的な存在です。子
どもたちが地域を結びつけてい
るようにも見えます。



松原美智さん